

交流・文化施設等運営管理計画検討委員会（第2回美術館検討委員会）次第

日 時：平成23年1月28日（金）

午後2時～5時（予定）

場 所：上田市役所3階第一応接室

1 開 会

2 会議事項

（1）事業展開、運営管理の基本的方向性について

①事業計画（事業展開・主な事業内容）について

ア 収集・管理活動

イ 展示活動

ウ 参加・体験型活動

エ アウトリーチ活動

オ 広報活動

②施設運営管理体制・組織について

③運営管理費計画について

④その他

（2）その他

・今後の委員会開催日程について

3 その他

4 閉 会

（配布資料） 資料① 事業展開・運営管理の基本的方向性について

資料② 第1回美術館検討委員会 発言要旨

## 事業展開・運営管理の基本的方向性について（美術館委員会資料）

## 1 事業計画（事業展開・主な事業内容）について

[以下整備計画書より]

## (1) 事業方針

## 郷土作家の顕彰・企画展示

上田市ゆかりの郷土作家（山本鼎、石井鶴三、ハリー・K・シゲタ、中村直人等）の作品展示及び顕彰、並びに幅広いテーマに沿った企画展示を行っていきます。

常設・企画展は常に魅力あるものとし、集客性を高め、上田市の魅力を全国に発信することを目指します。

## 創作・創造性を高め、参加・体験できる施設

市民の「アトリエ」等を活用した文化芸術活動や、各種講座・ワークショップなどの参加・体験型活動を通じ、市民文化の育成に向けた支援を積極的に行います。

## 開かれた施設、外に出て行く施設

市内全域をフィールドに、学校や福祉施設等と連携したアウトリーチ活動を行います。

## ボランティア組織の形成

運営管理に市民が参加できるボランティア組織づくりを行い、運営管理に市民が関われる環境を整備し、市民にとって身近な施設づくりに努めます。

## ホール部分や交流施設等との連携

ホールや交流施設、市民緑地等と一体整備される特性を生かした事業を行います。

## (2) 事業内容

「収集・管理活動」、「展示活動」、「参加・体験活動」、「アウトリーチ活動」、「広報活動」の5つを事業の柱として展開します。

区分	細目	内容
収集・管理活動	収集	・ 郷土作家を中心に作品、文献等の収集を行います
	管理	・ 美術作品の管理等を行います
展示活動	常設展示活動	・ 郷土を代表する作家の作品展示を実施します
	企画展示活動	・ 本施設独自の企画展示を実施します
	巡回展示活動	・ 県展等の大型展覧会の開催・運営支援を行います
参加・体験型活動	アトリエ活動	・ 市民が自由に芸術活動を行えるアトリエを貸出します
	ワークショップ	・ 利用者層に対応した芸術活動ワークショップを実施します
	市民ギャラリー	・ 市民の作品を公開展示します
アウトリーチ活動	ボランティア活動	・ 美術館における各種ボランティア活動を支援します
	出張展示活動	・ 出張展示に合わせて講演会等を実施します
広報活動	講演会等活動	・ 出張展示に合わせて講演会等を実施します
	出版・印刷	・ パンフレット、ポスター、冊子等を制作します
	その他広報	・ ホームページの開設及び常時更新を行います

## 2 運営管理体制・組織について

### 運営管理体制

- ・直営か指定管理者か

### 運営管理組織

- ・交流文化施設全体の運営管理方法
- ・ホール管理と美術館管理のすみ分け、連携については
- ・美術館管理における人員体制について

## 3 運営管理費の見込みについて

### 支出の試算

[以下整備計画書より]

#### (1) 維持管理費

交流文化施設全体で、年間231百万円。

#### (2) 事業費

ホール部分で約4千万円、美術館部分で約1千万円、合計約5千万円と想定。

#### (3) 人件費

人件費の算出にあたり、人員配置を次のとおりと想定します。

館長（ホール、美術館を総括する館長）1名

ホール（プロデューサー、管理部門、事業部門、技術部門）13名

美術館（プロデューサー、管理部門、事業部門）6名

以上合計20名程度を想定し、任期付、嘱託、臨時職員の積極的かつ効率的な配置を行い、また市民ボランティアにも協力をいただくなどで人件費の軽減を図ることにより、人件費は合計で1億円程度と想定します。

#### (4) 運営管理費試算結果のまとめ

以上の結果をまとめると、次のようになります。

項目		金額（百万円）
維持管理費	施設全体	231
事業費	ホール部分自主事業費	40
	美術館自主事業費	10
人件費	ホール・美術館を含む	100
合計		381

## 収入の試算

収入の試算にあたっては、基本設計前の段階でありますので、他施設の事例等をもとに以下のとおりと試算いたしました。

項目			金額(百万円)
利用料収入	大ホール	現上田市民会館の利用料収入と料金設定をもとに算出	27
	小ホール	信州国際音楽村ホールこだまの利用料収入を基に算出	5
	交流施設	現上田市民会館会議室の利用料収入をもとに算出	5
	美術館	全国の美術館の収入をもとに算出	5
	小計		42
事業収入	ホール部分	自主事業の想定に入場率・平均単価をかけて算出	20
	美術館	全国の美術館の収入をもとに算出	5
	小計		25
合計			67

## 収支試算結果のまとめ

以上で試算してきた支出及び収入を項目別にまとめると、次のようになります。

項目			金額(百万円)
支出	維持管理費	施設全体	231
	事業費	ホール部分自主事業費	40
		美術館自主事業費	10
	人件費	ホール・美術館含む	100
支出合計			381
収入	利用料収入	大ホール	27
		小ホール	5
		交流施設	5
		美術館	5
	事業収入	ホール部分	20
		美術館	5
収入合計			67
収支差			314
現施設(上田市民会館・山本鼎記念館)の維持管理経費			80
実質増加額			234

## 第1回美術館検討委員会 発言要旨

## ● 事業計画（事業展開・主な事業内容）について

## ①子どもに対する取り組み

- ・ 見る目を育てば、そして手も育つ、手が育てば、目も育つ。そういうアプローチをはっきり打ち出せるか。
- ・ 施設のあり方は、子供が学ぶ、感じるという点が重要ではないか
- ・ ワークショップについて、教室だけの授業では創造性にかける、土日等でそういった活動があればいいと思う。学校で出来ないものを作って行きたいと思う。
- ・ 例えば展示室の説明文に大きなルビをふるだけで、子供のためにあると子供は感じる、「この絵は君は好きかな？」と一言書いてあるだけで、子供は考える。
- ・ ナビカードのようなツールの開発も必要
- ・ コンクールの入選作品はきちんと額装して展示するようにしている。きちんとした形で子供に感動を与えないといけない。
- ・ 美術館が出来たら、小学生の社会見学のコースに組み入れるよう校長会等と言って行きたい。
- ・ 世田谷区の子供は区の方針で必ず世田谷美術館に行く。美術館でのマナー教育が前提。
- ・ 平成23年度から学習指導要領の改訂があり、鑑賞に力を入れている

## ②持続性

- ・ 上田以外の人をどうやって連れてくるかを考えていく必要、人を呼びお金を落としてもらえない美術館は採算が合わなくなり、破綻している。子供も重要だが、持続性の観点も必要。

## ● エリアマネジメント、市民との連携・協働について

## ①ボランティア

- ・ 美術会としては、自分が表現していたその力を子供の育成につなげられないか。
- ・ 徳島にある大塚国際美術館は来場者3～4人に1人ボランティアガイドがつく。
- ・ ボランティアの育成等、こどもにたどり着くまでにはいくつもの段階がある。
- ・ 先生のための教室をやる必要がある。

## ②収蔵品の展示・活用・アウトリーチ

- ・ 佐久市立近代美術館では2,700点の収蔵があるが、美術館ですべてを展示できないので、「出張まちじゅう美術館」として、3～4年前から市内の学校・公民館等の公共施設に貸し出し、展示を行っている。
- ・ 例えば展示室の説明文に大きなルビをふるだけで、子供のためにあると子供は感じる、「この絵は君は好きかな？」と一言書いてあるだけで、子供は考える。
- ・ ナビカードのようなツールの開発も必要。

## ● 設計に対する要望

- ・ 現在、児童の作品展を創造館、山本鼎記念館で行っているが狭いので、作品展をゆったりしたスペースでやりたい。
- ・ 子供の育成の観点からも、アトリエ・制作室等の用意が必要。
- ・ ワークショップを行う場所に、水道と、倉庫がほしい。
- ・ 美術館サイドにカフェがほしい。
- ・ 設計面での要望は、子供アトリエで400㎡、研究室で200㎡。